

# 第1章 下関市の景観特性

## 1. 景観特性

本市では、地形や歴史・文化、地域産業等を背景に「海峡にのぞむ市街地の景観」「海と大地の景観」「生業と共にある景観」からなる特性がみられます。

### (1) 海峡にのぞむ市街地の景観

本市は本州の最西端に位置し、古の時代から海陸交通の要衝として重要な役割を果たしてきた都市であり、数多くの歴史の舞台となってきました。現在でも、関門海峡に面して中心市街地が形成され、市の中核的な都市機能が集積しており、多くの人に海峡都市を印象づける市街地景観が形成されています。

#### ▼海峡にのぞむ都市景観

対岸に北九州市の門司港地区をのぞむ本市の市街地は、眼前に広がる関門海峡と、背後に位置する丘陵地の緑と一体になった都市景観を形成しています。

特に、中心部では海岸沿いに整備されたボードウォークや市街地内の小路である「港がみえる丘の径」等、さまざまな視点場から、関門橋や海峡への眺めを楽しむことができる特徴を持っています。

また、重要な港町として栄えた歴史を背景に、旧下関英国領事館や山口銀行旧本館等、多くの近代建築物が大切に保全されており、下関の産業発展を支えた歴史的な側面からも特徴ある景観を見ることができます。



日和山公園からの眺め



街角の近代建築物

#### ▼周辺に広がる市街地景観

産業の発展、人口の増加を背景に、鉄道や国道、中国自動車道等の整備・開通等により、昭和40年代以降、中心市街地から周辺へと市街地拡大が進みました。

彦島地区や綾羅木地区に住宅地が形成され、平地が少ないことから丘陵地にも市街化が進み、現在の市街地の姿が形成されています。

また、昭和50年には山陽新幹線の新下関駅が開業したことで宅地開発が進み、現在では、新下関駅周辺に商業業務施設や高層マンション等が集積しており、副都心としての都市景観を見ることができます。



山陽新幹線新下関駅



周辺市街地

### ▼歴史的な趣の残るまちなみ景観

長府地区は、古代の長門国府の成立により、現代にもその痕跡が引き継がれる都市計画の祖形が形作られました。また、中世には忌宮神社の門前町としてまちが形成され、江戸時代には萩藩の支藩・長府藩が成立し、毛利秀元により城下町が建設され、江戸時代には商業の中心である赤間が関とともに、武家の町として栄えた歴史を有しています。

現在でも、武家屋敷の門や土塀、庭木、小路からなる趣のあるまちなみが残されており、地区内を流れる壇具川では鯉も泳ぎ、歴史的な趣を今に伝えるまちなみが見られます。



長府地区古江小路



武家屋敷の門構え

## (2) 海と大地の景観

本市は、三方を瀬戸内海や日本海に囲まれているとともに、中部から北部にかけては山地が広がり、平地が少ない特徴ある地形条件を有しており、海と大地からなる骨格的な自然景観が特徴のひとつとなっています。

長い海岸線沿いでは、美しい海の眺めとともに、市街地から田園地域、自然海岸等多様な景観が見られる一方で、その背後には緑豊かな山なみの景観も広がっており、海と大地からなる特徴的な景観を見ることができます。

### ▼山の景観（山なみ、山からの眺望）

豊浦地域、木屋川沿いの田園地域では、緑豊かな山なみを日常的にのぞむことができ、市街地や田園地域の背景となる山の景観は市民に親しまれる特色ある景観のひとつとなっています。

また、豊浦の烏山、菊川の白山、豊田の華山等、市内にある多くの山頂や峠からは海や田園、市街地を眺めることができ、視対象としても視点場としても親しまれています。



田園の背景の山なみ（華山）



華山からの眺め

### ▼変化する海辺の景観（海岸線、海と島）

本市西側の響灘沿いには、長く入り組んだ海岸線と透明度の高い美しい海があり、そこには蓋井島や角島が浮かんでいます。

また、南には流れの速い関門海峡と狭い海峡を行き交う船舶、また穏やかな周防灘には満珠・干珠の島々が浮かぶ等、特徴の異なる海辺の景観が広がっており、市の特徴ある景観を形成しています。



響灘沿いの海岸

### (3) 生業とともにある景観

響灘沿いの豊浦地域や、木屋川流域に広がる田園地域では、まとまりのある農地と集落からなる田園景観を見ることができます。水の張られた水田、稲の生育とともに緑から黄金色へと変化する景観は、継続的な農業活動が支えている生業とともにある景観であり、穏やかなふるさと感じさせる景観です。

海岸沿いでは、漁業活動も盛んであり、港と船、集落からなる漁村集落の景観が見られ、海からの自然の恵みを背景とした生業とともにある特徴ある景観のひとつとなっています。

また、これらの農山漁村集落では、豊穰や安全等を祈願する寺社や祭りの景観も見られ、これらは地域固有の文化を継承する景観となっています。

#### ▼農山村集落の景観

木屋川流域や豊浦地域には、まとまった農地が広がっており、背景の山なみとともに美しい田園景観が広がっています。

農閑期には、地域の人々の手で植えられた菜の花の咲く景観によるもてなしや、豊田地域庭田地区等では、豊作の神様として猿田彦の石塚が田んぼの端に祭られる等、地域文化を継承した景観も見られます。

また、山間に位置する奥野地区では、棚田が残されており、石州瓦の集落とともに特徴ある景観が見られます。



豊田の猿田彦の石塚



奥野の棚田

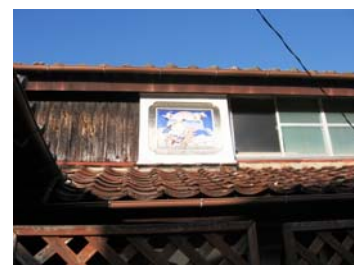
#### ▼漁村集落の景観

響灘沿いには、室津や小串、二見、矢玉、阿川等、多くの漁業集落が点在しており、漁港と船、集落と寺社等からなる漁業集落の景観を見ることができます。

中でも、豊浦地域室津地区では、住宅の建物の外壁の一部に、鰻絵が残る古い建物が見られます。これは、説話や物語、身近な動物や空想上の獣等を題材に、江戸から明治にかけての庶民の日常的な暮らしへの祈りや願いが込められた文化を今に伝える歴史的な景観のひとつでもあります。



小串漁港



室津の鰻絵

## 2. 景観の構造（景域と軸）

これまで整理してきた景観特性に基づき、それぞれを特徴づける景観の大きなまとまりとして読み取ることができる「景域」は6つに区分できます。

また、これらの景観の骨格を形成し、それぞれの景域を特徴づける役割を担っている重要な構造として3つの「景観軸」をあげることができます。これらの軸上では、移動に伴う連続と変化による景観（シークエンス景観）を楽しむことができます。

さらに、6つの景域内には、特に優れた景観を有する地域や、それぞれの地域固有の歴史や文化を背景とした特徴ある景観を有する地域（エリア）も多く、これらは「特徴的なエリア」として重点的な景観形成に取り組むことが望まれます。

なお、多くの人が集まるべき旧4町（旧菊川町、旧豊田町、旧豊浦町、旧豊北町）中心部についても、まちのイメージ形成を誘導する観点から、重点的な景観形成に取り組むことが望まれます。

それぞれの景域、景観軸、特徴的なエリアは、以下の表のとおりです。

### ①景域

特徴	景域	景観の概要
市街地	市街地景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>本州の最西端に位置し、古くから海陸交通の要衝として、海に面して中心市街地が形成されるとともに、平地の少ない地形条件から傾斜地も含め、高密度な市街地が広がっています。</li> <li>関門海峡を挟み、北九州市門司港地区と面しており、相互に見る／見られる関係にあります。</li> <li>主要な幹線道路の沿道には、ロードサイド型の商業施設も多く、その周囲には中低層住宅を中心とした住宅地が広がっています。</li> <li>海岸沿いでは、港湾施設や工場、漁港等地域固有の産業景観を見ることができます。</li> </ul>
海と山	響灘・海岸景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市西部は、響灘（日本海）に面しており、海と島からなる美しい自然景観が広がっています。</li> <li>自然海岸の残る海岸線や澄んだ水面、海に浮かぶ六連島や蓋井島や角島等が見られます。</li> </ul>
	海峡・周防灘海岸景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>本州と九州の狭間で、時代とともに数多くの歴史の舞台となった関門海峡は、本市のシンボリックな海辺空間であり、時間とともに変わる潮の流れや狭い海峡を大型船が往来する光景等、海峡固有の景観を見ることができます。</li> <li>周防灘（瀬戸内海）に海に浮かぶ満珠島、干珠島からなる美しい景観も見られます。</li> </ul>







	山間地景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市中北部にかけて、山間地が広がっており、狗留孫山や華山等の山間地では、豊かな自然環境が多く残されているとともに、これらの山なみは、川沿いに広がる田園景観の背景として、その美しい稜線を見ることができます。</li> <li>・ 山間には、豊かな自然に囲まれ、自然の恵みを活かした湯治場である一の俣温泉があります。</li> </ul>
生業	響灘・田園景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市街地の北西部から豊浦地域の海岸沿いにかけて、まとまりのある農地と集落からなる田園景観が見られます。</li> <li>・ 背後には山地・丘陵地が迫り、前面には日本海が広がる響灘沿いでは、地域固有の田園景観を見ることができます。</li> <li>・ かつて毛利侯の湯治場であった川棚温泉も見られます。</li> <li>・ 響灘沿いには、室津や小串、二見、矢玉、阿川等、漁港と漁村集落が数多く見られます。</li> </ul>
	木屋川流域・田園景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市東部に位置し周防灘へと注ぐ豊かな水をたたえる清流・木屋川流域では、川沿いの平地を中心に、広がりのある農地と集落からなる田園景観が見られます。</li> <li>・ 木屋川沿いには、萩と長府を結ぶ旧赤間関街道（北道筋・中道筋）が通り、かつて市のたった西市や宿場町吉田等のまちが形成され、その趣が今も残っています。</li> </ul>

## ②景観軸


景観軸	景観の概要
響灘沿岸軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市域の三方に海岸線を有する本市の特徴のひとつとして、響灘（日本海）沿岸における景観軸が形成されています。</li> <li>・ 美しく長い海岸線とともに、海岸沿いを通る国道 191 号や J R 山陰本線等、南部の市街地から中部の田園地域、北部の山地の迫る中に点在する漁港集落までが結ばれ、海を介して連続する景観として認識されます。</li> </ul>
海峡・周防灘沿岸軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下関・北九州の両市街地が迫る狭い関門海峡から周防灘（瀬戸内海）にかけて、海峡・周防灘沿岸軸が形成されています。</li> <li>・ 潮流の激しい関門から穏やかな周防灘へと変化する海辺に面して市街地が形成され、国道 2 号や 9 号、山陽本線等で結ばれ、海を介して連続する景観として認識されます。</li> </ul>
木屋川軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市東部に位置し周防灘へと注ぐ清流・木屋川は、豊かな水をたたえる自然環境であるとともに、貴重な水源としても重要な役割を担う景観軸が形成されています。</li> <li>・ 河川沿いにはまとまった田園が広がり、国道 491 号や県道等で結ばれ、川を介して連続する景観として認識されます。</li> </ul>

③特徴的な景観を有するエリア


特徴	特徴的な エリア	景観の概要
市街地	関門拠点 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市のシンボリックな景観のひとつである関門海峡をのぞみ、歴史的な拠点でもある中心市街地からなる地域で、関門景観条例により海峡を挟んで向かい合う北九州市門司地区と一体的な景観形成が進められている地域です。</li> <li>海と港、市街地と背後の丘陵地、また関門橋が一体となった景観は、特徴ある固有の景観として、多くの市民や来訪者に本市を印象づける景観となっています。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">関門海峡にのぞむ市街地</p>
	新下関拠点 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陽新幹線新下関駅周辺は、広域交通の玄関口のひとつであり、副都心として商業・業務施設の集積が進んでいる地域です。</li> <li>副都心にふさわしい玄関口としての景観形成を誘導しつつ、周囲の住宅地と調和した魅力的な景観形成を図ることが求められている地域です。</li> </ul>  <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>新下関駅東側</span> <span>新下関西地区</span> </p>
	長府歴史 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>毛利氏により長府藩の城下町として栄えた長府地区では、旧山陽道を中心にまちが形成され、今でも多くの通りで武家屋敷の門や土壁等からなる古いまちなみを見ることができ、史跡や旧跡、名所も多く残されています。</li> <li>長府地区では、現在の歴史的なまちなみを保全・再生するため、街なみ環境整備事業により、金屋地区・宮の内地区・古江小路地区・惣社地区において街づくり協定に基づき官民の連携でまちなみ形成が進められています。</li> </ul>

			
	<p>北長門海岸エリア (国定公園)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入り組んだ海岸線と美しい響灘（日本海）が広がり、そこに浮かぶ角島からなる風光明媚な景観を有する地域で、北長門海岸国定公園に指定され、貴重な自然環境の保全・活用に取り組まれている地域です。</li> <li>・ かつては特牛港からの渡船での往来のみでしたが、平成12年に角島大橋が整備され、新たなシンボリックな景観要素となっています。</li> </ul>	 
<p>海と山</p>	<p>御嶽・豊田湖自然エリア (自然公園)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「御嶽」と称され修験道の霊峰でもある狗留孫山や華山等では、山間部の貴重な自然を見ることができるとともに、麓からの山なみ、山頂からの眺め等、視対象や視点場として多くの人に親しまれている自然景観を有する地域で、豊田県立自然公園に指定され、保全・活用されています。</li> <li>・ 同様に豊田県立自然公園に指定されている木屋川の上流に位置する豊田湖周辺においても、豊かな水と緑からなる自然景観を楽しめる地域です。</li> </ul>	 


生業	室津・涌田エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊浦地域室津地区は、自然の良港である室津湾、湾にせり出す甲山と海岸沿いに広がる松原の緑、湾沿いの漁業集落やヨットハーバー等、自然と調和した港町ならではの地域固有の景観を見ることができます。</li> <li>甲山や烏山の山頂から室津湾を眺める眺望は、美しい自然景観として市民に親しまれています。</li> </ul>
	川棚湯町エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊浦地域に位置する川棚温泉は、室町時代に僧により掘り当てられたといわれる長い歴史を持つ湯町であり、かつては毛利侯の湯治場として利用された歴史や山頭火の愛した温泉地の歴史を有する地域です。</li> <li>本市の奥座敷として、旅館やホテルが軒を並べる湯町景観が見られます。</li> </ul>



甲山から見る室津湾



烏山から見る室津湾



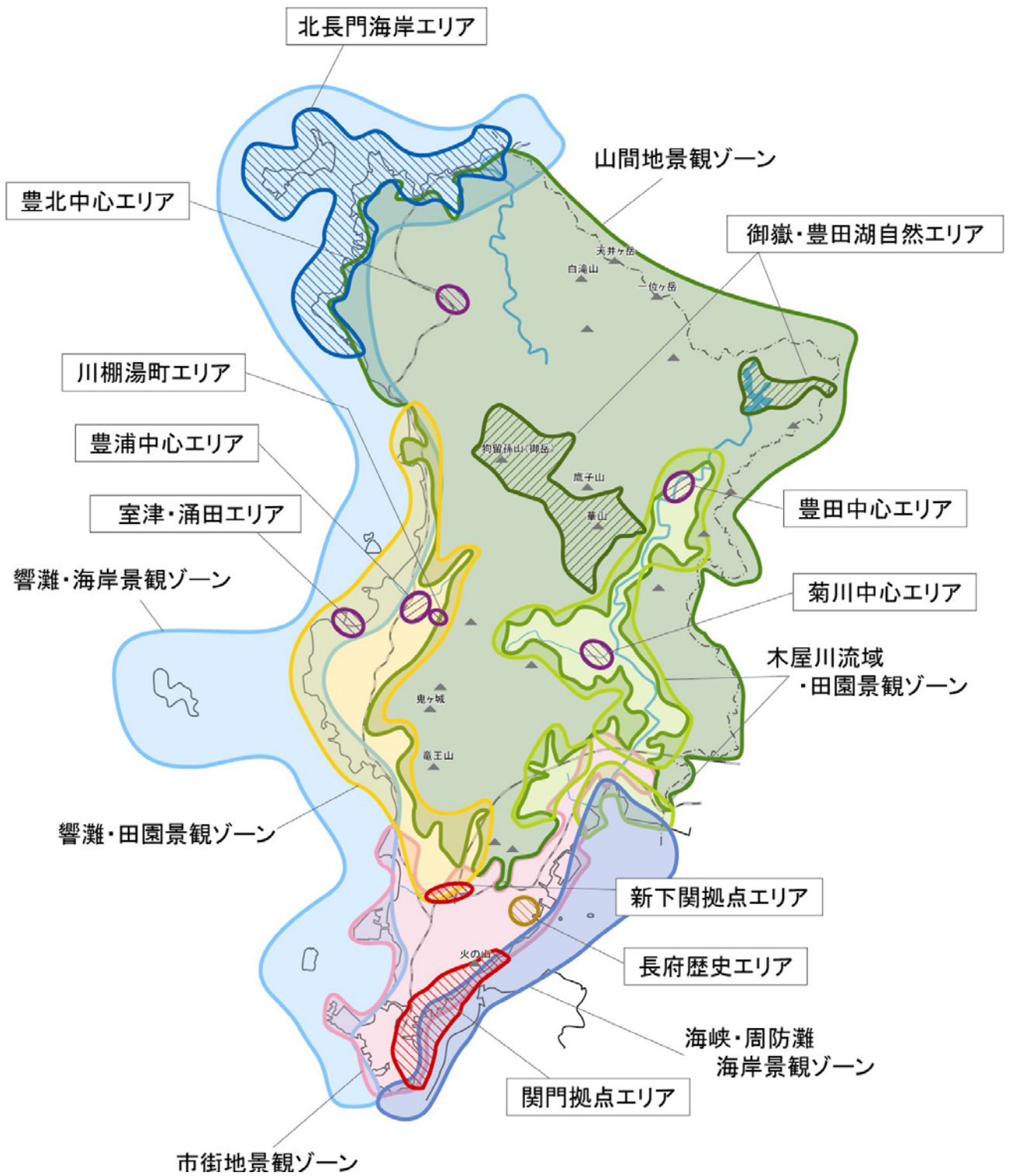
川棚湯町

④まちのイメージ形成を中心的に担うエリア

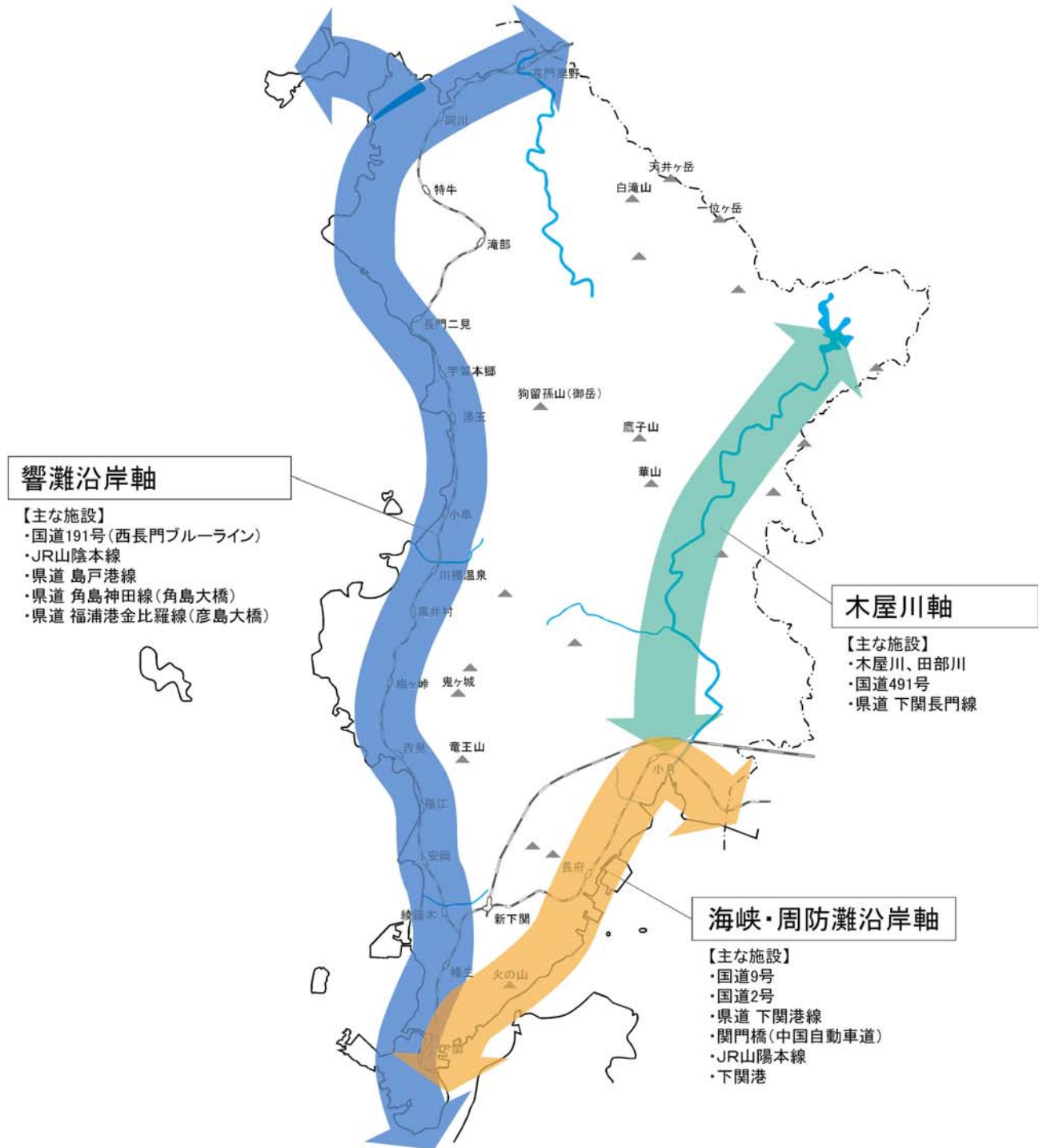
特徴	中心エリア	景観の概要
生業	豊浦中心エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>合併以前から各地域の中心的な役割を担ってきたエリアであり、地域の活力創出を担っていくことが求められている地域です。</li> <li>各地域での良好なまちのイメージ形成を図るにあたり、誘導する観点から各地域の中心となって、地域資源を活かしつつ、住民と行政が一体となり景観まちづくりに取り組んでいくことが重要な地域です。</li> </ul>
	菊川中心エリア	
	豊田中心エリア	
海と山	豊北中心エリア	



# 景観形成にかかるゾーニング



# 景観形成における重要な軸



## 響灘沿岸軸

- 【主な施設】
- ・国道191号(西長門ブルーライン)
  - ・JR山陰本線
  - ・県道 島戸港線
  - ・県道 角島神田線(角島大橋)
  - ・県道 福浦港金比羅線(彦島大橋)

## 木屋川軸

- 【主な施設】
- ・木屋川、田部川
  - ・国道491号
  - ・県道 下関長門線

## 海峡・周防灘沿岸軸

- 【主な施設】
- ・国道9号
  - ・国道2号
  - ・県道 下関港線
  - ・関門橋(中国自動車道)
  - ・JR山陽本線
  - ・下関港